



チカラコブタクん

ぼくのヒミツを
教えるコブ!

コブタ的 広報誌の つくりかた

〈もくじ〉

- 01 広報誌をつくろう
- 02 紙面の企画
- 03 取材～記事作成
- 04 紙面づくり

富士市内 26 地区のまちづくり協議会活動のようすを掲載している「コブタレポート」は平成 27 年 3 月から 30 年 3 月までに 10 号、特別号（平成 28 年度まちづくり未来会議、役員ワークショップ・平成 29 年度まちづくり未来会議、まちづくり交流会）を発行してきました。
今回、コブタレポートの作成の裏側をご紹介しますことで、広報物のつくり方のヒントをお伝えします。地区広報誌作成の参考にしてください。

STEP 01 広報誌をつくろう 〈発行の企画〉

- なぜ広報誌をつくるのか、**対象者と発行の目的、方向性（大切にしたいこと）**を確認しておきます。単に活動を知らせるだけでなく、知らせる先に望むもの（例えば、団体同士のつながりを深めてほしい、参加者を増やしたいなど）によって、誌面構成や掲載内容も決まっていきますので、広報誌発行で大切にしたいことをよく話し合っておくことが大切です。
- 発行の目的、方向性が決まったら、**大きさや配色、紙面構成**を決めます。できるだけいろいろな角度から情報提供ができるように、コーナーを作ります。大まかな**発行サイクル**を決めておくことも必要です。

コブタレポートの場合

まちづくり協議会に関わる方々に、各地区の活動事例を市内全地区に知らせ、そこからそれぞれの地区活動活性化につなげてほしい、その知らせ方として、広報誌という形を選びました。
そのため、活動事例紹介にとどまらず、他の地区でも生かしていただけるような活性化のヒントを提示していくことにしました。



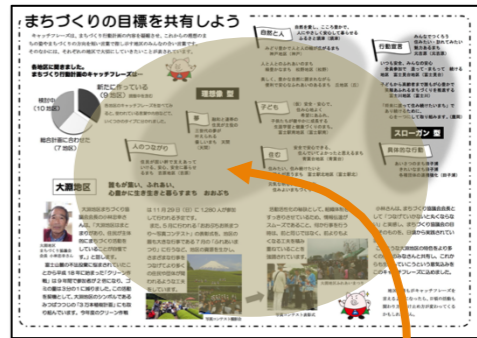
第1号表紙には、発行の目的を紹介しました。

コブタレポート紙面構成

「コブタレポート」は、A3・2つ折り、カラー（モノクロ印刷が可能な程度に）で、年間4回発行しています。



【表面】大切なお知らせ、今伝えたいこと

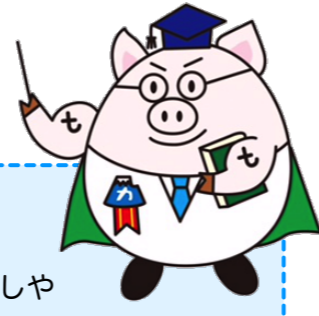


【中面】特集：各号のテーマにあった地区まちづくり協議会活動の事例紹介



【裏面】お知らせや報告など

STEP 04 紙面づくり



- 記事が完成したら、作った記事を紙面に割り付けていきます。**読む人の立場を考え**、読んでみたくなるような紙面にしたいものです。レイアウトは、上から下、右から左といった配置に**規則性**を持ちつつ、見出しや写真の大きさなどで**変化**をつけながら自然と読み進められるように工夫します。

コブタレポートの場合

「コブタ」第2号より

リード文
本文の内容を説明する短文

富士市は「地区広報紙」作成を応援します！

「富士市まちづくり協議会活性化補助金」において、重点事業の一つとして「情報共有に関する取り組み」を対象に補助金が加算されます。
詳しくは、地区まちづくりセンターまたは富士市まちづくり課までお尋ねください。

「コブタレポート」のバックナンバーは富士市のホームページからもご覧いただけます。



【発行】平成 30 年 3 月
【発行者】富士市民部まちづくり課
富士市永田町 1 丁目 100 番地 (富士市役所 3 階)
☎ (0545) 55-2887
http://www.city.fuji.shizuoka.jp/

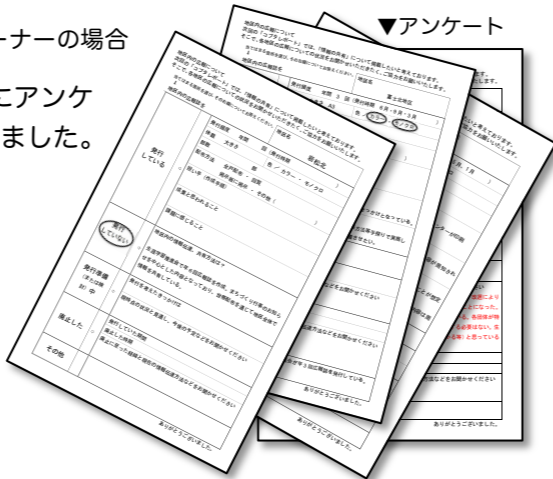
STEP02

紙面づくり

- 広報誌発行の目的を具体的に方法を考えていくことで、各号のテーマを決めます。
- テーマが決まったら、全体の構成（流れ）と具体的な掲載内容（個別の記事で伝えたいこと＝取材の趣旨）、簡単なレイアウトをつくり、個々の記事の文字数など、大まかなボリュームを決めます。地区広報誌では、地区のみなさんに活動を報告するだけでなく、そのなかの楽しさなども感じられるような企画をしてみてください。
- 一方、紙面が出来上がるまでにはさまざまな手順があり、時間が必要です。発行までのスケジュールを作り、進捗状況を確認しながら、手分けをして作業を進めましょう。
- 地区の広報誌では、活動だけでなく、地区の名所や季節の話題なども重要な情報源となります。日頃から地区の様子に関心を持ち、テーマのアイデアを貯めておくことも大切です。また、自然と情報が集まるような仕組みづくりをしたいですね。

コブタレポートの場合

掲載内容の決め方 ～コブタレポート【中面】特集コーナーの場合
第6号のテーマは「広報」。各地区の状況を知るためにアンケートを行い、その結果から掲載内容と構成を決めていきました。



アンケート結果から、広報誌を長年発行している地区、発行を始めた地区、発行を検討している地区などがあることがわかり、それぞれ1地区を紹介することにしました。

STEP03

取材～記事作成

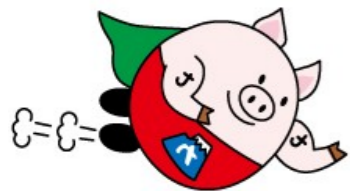
- 個別の記事づくりをします。インタビューや、自ら行事などに参加し体験をまとめる、寄稿をお願いするなど、記事の作り方にはいろいろな方法があります。インタビューや体験の場合には、取材に出かける前にわかる範囲で取材先についての関連情報を集め、その上で質問したいことを整理します。取材先には、事前に取材の趣旨、内容、質問したいことなどを伝えておきます。
- そして、原稿を補完するものとして写真を集めます。雰囲気分かる動きのある写真は記事の内容をより伝わりやすくします。
- 材料が揃ったら原稿を作りますが、入手した情報全てを記事にすることはできません。STEP2の構成に照らし合わせて情報に優先順位をつけ、取捨選択しながら文章にしていきます。その後、取材先に事実関係などに誤りがないかチェックしていただくことも必要です。
- 地区で作る広報紙の強みは、地区の細やかな情報が載せられることではないでしょうか？ぜひ、活動そのものだけでなく、その中でがんばる「人」に注目し、その思いを紙面にのせてみてください。

コブタレポートの場合

取材・記事作成 ～コブタレポート【中面】特集コーナーの場合

「コブタレポート」中面の特集記事は、毎回、地区まちづくり協議会役員のみなさんへのインタビューによって作成しています。インタビュー時間は、1時間から1時間30分ほどです。取材の趣旨をお伝えしたあとは、おしゃべりや雑談のような形で自由にお話いただくようにしています。こちらが聞きたいことだけでなく、地区の方が話したいことの中に、活動するうえで工夫されたことや成功のポイントなどが含まれていることが多いからです。活動内容(5W1H)だけでなく、なぜその活動を行ったのか、どんな人達が関わったのか、どのような工夫や苦労があったのか、どう感じたか、といった活動の背景や理由を、話し手の言葉を生かしながらいねいに引き出すことによって、他の地区の方々にお伝えできる活動のヒントが見えてきます。

▼取材風景



情報の整理が大切なコブタ

第7号では、まちづくりセンターからの情報提供によってテーマが決まりました。「この事例を知らせたい」「活用できるヒントがある」と感じる事例が見つかった場合は、発行の目的に照らし合わせてテーマとして取り上げることもありました。



楽しおしゃべり会
みただコブタ



第5号では、まちづくり行動計画の活用についてまちづくり協議会会長にお話を伺いました。そのインタビューの中で、普段地区の皆さんに伝えていた方法がとてもわかりやすく、印象的でした。特集のテーマには直接関係しないことも、「コブタレポート」の目的に即していると考え、紹介することにしました。